

静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び評価結果(年度評価)

令和2年7月

静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課

1 施設名及び指定管理者名

静岡県舞台芸術公園 公益財団法人静岡県舞台芸術センター

2 指定期間

平成29年4月1日～令和4年3月31日(5年間)

3 指定管理業務評価の流れ

- (1) 令和元年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。
- (2) 県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。
- (3) 自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。(開催日 令和2年7月21日)

【外部委員】

| 氏名 | 職名 |
|---------|-----------------------|
| 岩崎 邦彦 | 静岡県立大学 経営情報学部 教授 |
| 江成 博行 | 静岡フィルハーモニー管弦楽団 理事長 |
| 木ノ下 智恵子 | 大阪大学 共創機構社会学共創部門 准教授 |
| 木村 玲美 | 浜松総務部有限公司 代表取締役 |
| 坪池 栄子 | 株式会社文化科学研究所 研究プロデューサー |

4 評価結果

(1) 外部委員による評価

ア 総合評価(5段階評価)

令和元年度実績は、評価点「4.3」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

| | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 0～1. 4 | 1. 5～2. 4 | 2. 5～3. 4 | 3. 5～4. 4 | 4. 5～5. 0 |
| 実施しなかった | 不十分な実施だった | 概ね実施した | よく実施した | 大変よく実施した |

イ 評価に関する意見

- 公園内に古さを感じる。散策のためには案内板の充実など、来園者への配慮が欲しい。長期的なビジョンを模索して、学生などが利用できる施設として更なる活用を望む。
- これまでの発想にとらわれず、「公園」としての“場の力”を活かした取組を。アートの「地産池消」や、地域の演劇ファンを増やす拠点としての活用を考えてはどうか。（“掛け算”による価値創造。ハイキング×演劇、美術（県立美術館）×演劇、地域の学生×演劇、茶畑×演劇など。）
- 舞台芸術公園という類のない文化環境は、コロナ下の強みであり、より自覚的に県や異分野の他者の力（人・物・カネ）を動員した連携に期待。
- 教科書朗読シリーズのような地道な活動がS P A Cの芸術的意義やそれを産み出す舞台芸術公園への県民の理解を深める。舞台芸術公園自体や芸術を生み出すプロセスや様子も発信すると良い。
- 俳優による公園ガイドという新たな取り組みを評価。指定管理者と県がしっかり話し合い、芸術公園という資源を再評価し、コロナがもたらす様々な事態に立ち向かって欲しい。

(2) 県評価の概要

ア 総評

(公財) 静岡県舞台芸術センターは、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ 概要(提案項目別評価)

(ア) 効果的・効率的な管理

a 再委託業務経費の軽減化

- ・入札による競争性の確保、及び複数年契約の導入における経費節減に努めている。

b 公園のPR

- ・俳優自らが園内ガイドを行うなど、訪れる県民の関心や理解を深める工夫が見られる。

(イ) 公園の特性や課題の認識及び県との協調連携

a 交通の利便性の確保

- ・利用者が増加する公演時に、関係者と連携して送迎バスの手配や駐車場の確保を行うことにより、利用者の利便性の向上に努めた。

b 行政と事業者の立場

- ・公園利活用検討会議の場で相互の意見交換を活発に行い、新たな企画の実現につなげ

たとともに、日常的に連絡を取り合い適切な施設管理を行っている。

(ウ)維持管理

a 維持管理計画

- ・委託業者等との連携により、年間計画に基づいた維持管理を着実に行った。

b 警備・美化清掃

- ・常駐の委託業者やスタッフと定期的な打合せの場を設けて連携体制を整え、適切な維持管理につなげた。

c 設備の維持管理

- ・常駐の委託業者やスタッフとの密な連携構築と、担当者の細やかな管理により、適切な維持管理に努めた。

(エ)施設の破損等に対する対応策等

a 施設修繕への対応

- ・関係者間で施設の維持管理についての重要性を共有し、計画的な対応に努めた。

b 損害保険への加入

- ・計画に基づき適正に対応した。

(オ)災害等への対応

a 災害、緊急時等の対応

- ・公演中の災害発生を想定した実践的な訓練に新たな演習を加えることにより訓練の精度を増し、常に高い防災意識で災害発生に備えた。

(カ)職員・常駐業者の能力育成

a 施設の技術的な維持管理

- ・年間を通じて事故は発生せず、技術スタッフにより舞台設備等の適切な維持管理が行われていると認められる。

b 園地管理的な維持・管理業務

- ・計画的に園地管理を実施し、良好で安全な環境維持に努め、利用者からも高い評価を得た。

(キ)施設等の使用団体との調整

a 施設等の使用団体との調整

- ・県民月間での使用団体の公演活動を適切にサポートしている。今後、使用団体とのネットワークを深めることで、県の演劇文化の裾野拡大に期待する。

(ク)地域との連携

a 地域との連携

- ・地域のボランティアスタッフを活用し、適切な施設管理に努めた。

b 関係機関との連携

- ・緊急時に備えて、警察・消防との連絡体制強化に努めた。